

# 上北地域

十和田市 三沢市 野辺地町 七戸町 六戸町 横浜町 東北町 六ヶ所村 おいらせ町

## 1 2030年における地域のめざす姿

### 戦略的な農林水産業が展開されている地域

上北地域では、農商工と研究機関相互の技術・情報交流が進展する中、地域の中核を担う経営体などが中心となって地域全体の発展という視点から担い手育成やコミュニティ機能の維持などを行う「地域経営」が推進されており、量・質ともに全国に誇れる食の一大生産地としてブランド化が進み、関係者の総結集による国内外への販売戦略が展開されています。

土づくりが徹底された豊かな大地と清浄な水から生産される安全・安心で高品質な農林水産物は、県外の消費者はもとより地産地消活動の活性化によって生産者と消費者双方に高い満足度を生み出すとともに、食品産業の発展を促し、雇用の場の拡大に大きく寄与しています。

#### めざす理由

農林水産物の高付加価値化や担い手の育成に取り組んでいくことで、上北地域の強みであり、重要な生業(なりわい)である農林水産業や関連産業を伸ばしていくことができるのです。

### エネルギー産業の集積が進む地域

むつ小川原開発地区を中心に、風力発電施設、太陽光発電施設、原子燃料サイクル関連施設、核融合関連施設、原子力人材育成・研究開発機関などが集積しエネル

ギー産業の拠点化が進展することにより、地元の雇用の場が拡大しています。

#### めざす理由

上北地域の強みであるエネルギー産業の集積を生かし、将来においても地域経済の活性化や雇用の場の維持・拡大を図ることが重要なのです。

### 貴重な資源を生かした魅力あふれる滞在型観光地

十和田湖・奥入瀬渓流に代表される美しい自然、豊かな食材、歴史・文化を体感できる施設、先端的なエネルギー産業の集積など、地域ならではの貴重な資源の魅力を生かし、多様なニーズを踏まえたグリーン・ツーリズム、エコツーリズム、アートツー

リズム※、産業観光などの観光形態に対応できるとともに、景観や環境の保全に配慮された自然を満喫できる滞在型の観光地となり、国内外を問わず多くの観光客がこの地域を訪れています。

※アートツーリズム:美術館や展覧会などを探訪する旅行スタイルのことです。

#### めざす理由

上北地域は、神秘的な湖十和田湖、優美な流れで知られる奥入瀬渓流など優れた自然景観を有する十和田八幡平国立公園など滞在型観光地にふさわしい魅力を備えています。上北地域の貴重な資源を生かした魅力あふれる滞在型の観光を進めることで、観光入込客数や観光による消費額の増加につながるのです。

### 誰もが安全・安心に暮らせる地域社会

災害に強い生活環境の下で、関係機関、NPO、民間団体などが一体となって、地域全体で住民を支え、誰もが安全で安心して暮らせる社会が構築さ

れているとともに、一人ひとりが希望と生きがいを持ち、自らが健康づくりに取り組む社会環境が整備されています。

#### めざす理由

人口減少や高齢化の進行への対応、東日本大震災の教訓を生かし、災害に強い地域づくりなどを進めることで、誰もが安全で安心して暮らせる地域社会が形成されるのです。

2 地域の概要



美しい海と山と湖沼に囲まれた地域

上北地域は、県の東南部に位置し、十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町の2市6町1村で構成され、人口はおよそ21万人、面積は2,127平方キロメートル(県土の22.1%)となっています。

地形は、太平洋と陸奥湾及び八甲田山系に囲まれ、ほぼ平坦な台地が広く分布し、地域の南側を、十和田湖を源とする奥入瀬川が西から東に流れ、太平洋に注いでいます。また、北部太平洋側には、小川原湖などの湖沼が点在しています。

気候は、春の終わりから夏にかけて冷たいヤマセが吹くことがあります。冬は晴天の日が多く、降雪量が比較的少ないのが特徴です。

超一級の資源が存在するポテンシャルの高い地域

上北地域は、食料、エネルギー、観光のいずれをとっても超一級の資源が広く存在し、更に三沢空港と東北新幹線七戸十和田駅という高速交通の二大拠点を有するポテンシャルの高い地域です。

そして、先人の偉業である人工河川稲生川の上水に象徴される、満ちあふれるチャレンジ精神や、ヤマセによる夏季冷涼な気候下で、馬産地から現在の野菜・畜産を主体とする農業生産地を築き上げてきた適応力の高さがあります。

空港や新幹線駅を有する交通の要衝

道路網では、幹線としてみちのく有料道路や国道4号、国道102号などがあるほか、上北道路が平成25年3月に供用開始され、下北半島縦貫道路吹越バイパス及び横浜南バイパス、国道103号青樺山バイパスの整備が進められています。鉄道では、東北新幹線、青い森鉄道、JR大湊線が運行されています。また、空路として三沢空港を有するとともに、東北新幹線七戸十和田駅を有するなど、本県の交通の要衝となっています。



畜産・野菜・ホタテを主体とする農林水産物の生産地

産業面では、農業生産額が県内で最も高く、中でも、酪農、肉用牛、養鶏、養豚などの畜産業と、ながいも、にんにく、ごぼうを始めとする野菜の占める割合が大きくなっています。また、水産業では、陸奥湾でのホタテ養殖や小川原湖などでの内水面漁業などが盛んです。

国内有数のエネルギー関連施設の集積地

むつ小川原開発地区のある六ヶ所村は、国内でも有数の風力発電立地地域であり、蓄電池併設型ウインドファーム※が立地するなど、先進的な取組も行われています。また、国家石油備蓄基地や原子燃料サイクル施設が立地しており、我が国有数のエネルギー関連施設の集積地となっています。加えて、ITER 関連施設を始め、エネルギー関係の研究開発機能や世界最先端の技術が集積しているほか、その環境影響の調査研究など安全・安心な地域を支える取組も進められています。

※蓄電池併設型ウインドファーム:風力発電設備と蓄電池を合わせて電力量を制御することで調整した電力を地元電力会社に売電する風力発電事業者のことで。

自然美豊かな観光地

観光では、神秘的な湖十和田湖と、優美な流れで知られる奥入瀬溪流、広大な自然景観を有する八甲田連峰、県内随一の広さを持ち、水産資源に恵まれた小川原湖など、多くの自然・観光資源を有しています。

3 地域の特性と課題



構成市町村ごとの人口と世帯数

上北地域の人口は、20万7,975人で、県全体の約15%となっており、このうち、十和田市と三沢市で全体の半数を超えています。表1

表1 構成市町村の人口・世帯数

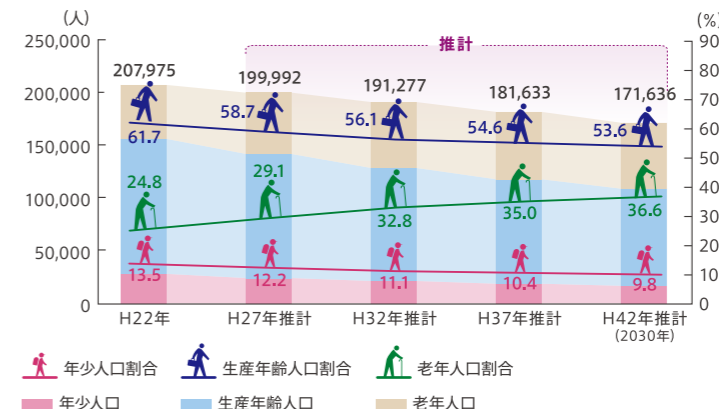
	十和田市	三沢市	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町	六ヶ所村	おいらせ町	合計
人口(人)	66,110	41,258	14,314	16,759	10,241	4,881	19,106	11,095	24,211	207,975
世帯数	25,554	16,211	5,766	5,713	3,307	1,884	6,007	4,751	8,330	77,523

資料:総務省「平成22年国勢調査」

将来推計人口

上北地域の将来人口は、年少人口、生産年齢人口が減少し、全体として人口が減少する一方で、老年人口が増加し、高齢化が進行すると推計されていますが、平成22年から42年(2030年)までの20年間の人口減少率は17.5%、高齢化率は36.6%と、県全体の人口減少率21.0%、高齢化率37.6%に比べると、ともに低いものになっています。図1

図1 将来推計人口の推移



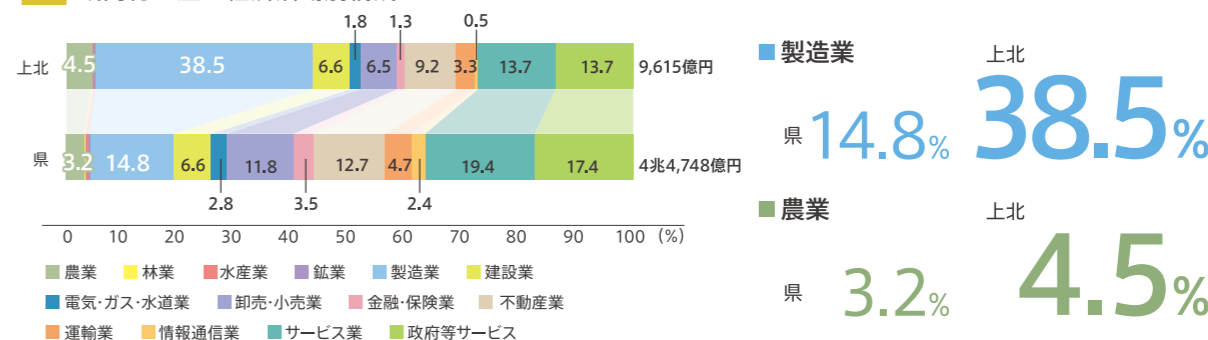
資料:総務省「平成22年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成25年3月推計)

域内総生産の経済活動別構成

域内総生産は9,615億円となっており、県全体の21.5%を占めています。内訳を見ると、製造業の割合が最も高く、次いで、サービス業、政府等サービスの割合が高くなっています。

県全体と比べると、製造業、農業の割合が高く、サービス業、卸売・小売業、政府等サービス、不動産業などの割合が低くなっています。図2

図2 域内総生産の経済活動別構成

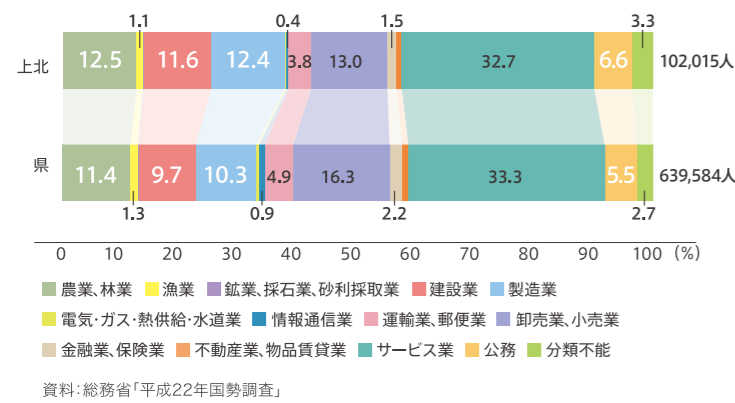


資料:県企画政策部「平成22年度市町村経済計算」  
※総資本形成に係る消費税を控除していないため、合計は100%を超える。

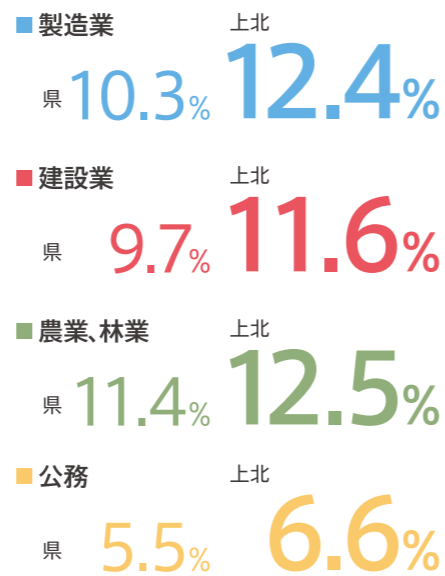
## 就業人口構成

就業人口は、10万2,015人で、県全体の16.0%となっています。内訳を見ると、サービス業の割合が最も高く、次いで、「卸売業、小売業」、「農業、林業」、製造業の割合が高くなっています。

図3 地域の就業人口構成



県全体と比べると、製造業、建設業、「農業、林業」、公務の割合が高く、「卸売業、小売業」、「運輸業、郵便業」の割合が低くなっています。図3

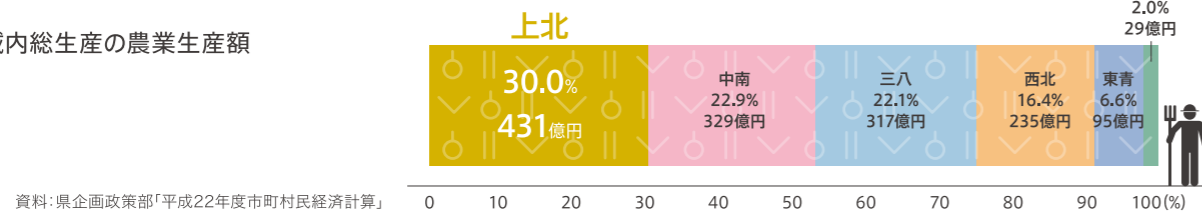


## 農業生産額

域内総生産の農業生産額は、431億円となっており、県全体の30%を占め、県内で一番高くなっています。今後、地域の重要な「生業(なりわい)」である農林水産業

を一層振興していくためには、農林水産物の高付加価値化と担い手の育成に積極的に取り組んでいく必要があります。図4

図4 域内総生産の農業生産額



## 水稲・主要野菜作付面積(平成24年)

水稲・主要野菜作付面積は、ごぼう、ながいも、にんにくなど、多くの野菜の作付面積が、県全体の半数以上を占めています。表2

表2 水稲・主要野菜作付面積

	水稲	ごぼう	ながいも	だいごん	にんにく	にんじん	ばれいしょ	キャベツ	ねぎ	こかぶ
上北	9,328	1,568	1,290	1,053	893	485	423	204	110	114
県全体	46,900	1,758	1,709	1,610	1,524	667	650	237	288	123
割合	19.9%	89.2%	75.5%	65.4%	58.6%	72.7%	65.1%	86.1%	38.2%	92.7%

単位:ha  
資料：県上北地域県民局地域農林水産部

## 主要家畜飼養頭羽数(平成24年2月現在)

主要家畜飼養頭羽数は、乳用牛、肉用牛、豚、肉用鶏が県全体の半数を超えています。表3

表3 主要家畜飼養頭羽数

	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
上北	9,427	36,573	253,913	2,021,912	3,553,170
県全体	14,120	60,963	396,437	6,669,786	7,063,820
割合	66.8%	60.0%	64.0%	30.3%	50.3%

単位:頭(牛・豚)、羽(鶏)  
資料：県上北地域県民局地域農林水産部

## 風力発電の設置基数・設備容量

風力発電(単機出力100kW以上)の設置基数 図5 及び 設備容量 図6 は、111基、176,750kWとなっており、どちらも県全体の50%以上を占めています。むつ小川原開発地区は、我が国有数のエネルギー関連施設の集積地となっており、今後、更なる発展が期待されていることから、こうした先端のエネルギー産業の集積を地域経済の活性化や雇用の確保につなげていくことが求められています。

図5 風力発電設置基数(平成24年)

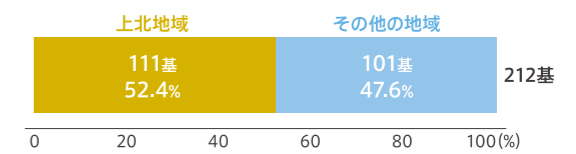
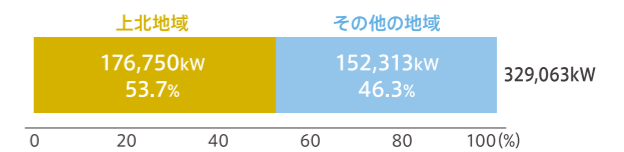


図6 風力発電設備容量(平成24年)



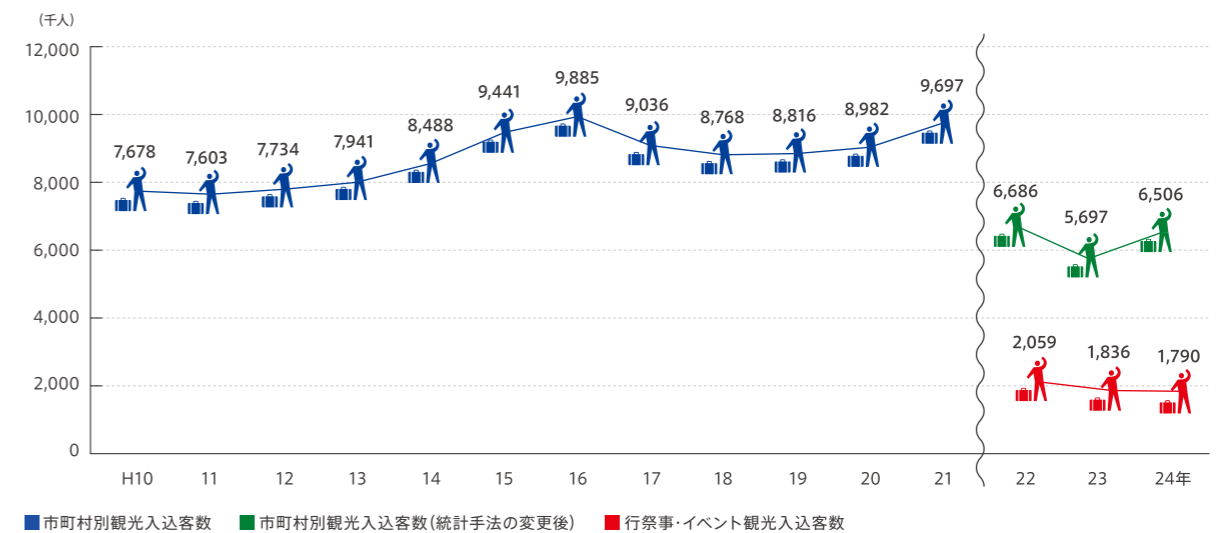
資料：県エネルギー総合対策局

## 観光入込客数

観光入込客数は、平成16年をピークに減少し、平成20年、21年は増加に転じたものの、平成22年以降は減少傾向となっています。こうした中、平成

27年度に予定されている北海道新幹線新函館(仮称)駅開業の機会を有効に活用し、観光客入込の回復を図ることが重要な課題となっています。図7

図7 観光入込客数



## 生活面

生活面では、県内他地域と同様に人口減少、高齢化などが進行していること、自殺による死亡率が比較的高いことを踏まえるとともに、東日本大震災

の教訓を生かし、誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりを進める必要があります。



4 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) 農林水産業の成長産業化と人財育成

安全・安心で高品質な農林水産物の生産力が非常に高い上北地域において、地域力を生かした生産販売活動の一層の強化、他業種との密接な連携やグリーン・

ツーリズムなどによる6次産業化を進め、農林水産業の成長産業化をめざすとともに、チャレンジ精神の旺盛な人財の育成に取り組みます。

【主な取組】

① 消費者ニーズに対応した農林水産物や加工品の生産とブランド化	④ 他業種との連携やグリーン・ツーリズムなどによる6次産業化の推進
② 日本一健康な土づくり運動の定着と安全・安心な農林水産物の安定生産	⑤ 農村コミュニティの維持と地域づくりに貢献する人財の育成
③ 高品質な農林水産物の効率的生産体制の構築	

(2) 地域特性を生かした多彩なエネルギーの利活用

風力発電施設や原子燃料サイクル施設を始めとする多彩なエネルギー関連施設の集積を生かし、関連

産業の振興や、再生可能エネルギーの導入などを推進します。

【主な取組】

① 風力発電や太陽光発電など地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入促進	② 環境・エネルギー関連産業の振興
---------------------------------------	-------------------

(3) 資源を最大限に生かした魅力づくりと滞在型観光の振興

上北地域の有する美しい自然、温泉、豊富な食材、歴史、文化などの地域資源を組み合わせ、新たな魅力づくりを進めるとともに、地域に根付いている魅力を見つめ

直し、地域内外から愛される滞在型観光の振興に取り組みます。

【主な取組】

① 本県を代表する観光地である十和田湖・奥入瀬渓流観光の活性化	④ 地域の暮らしや風土、歴史、文化に根ざした魅力や資源の掘り起こしと磨き上げ、情報発信の強化
② 三沢空港や七戸十和田駅などの交通拠点を生かした観光の推進	⑤ 観光事業者、地域住民が一体となった、国内外からの観光客受入態勢の整備
③ 地域資源を組み合わせた面的観光ルートの形成	

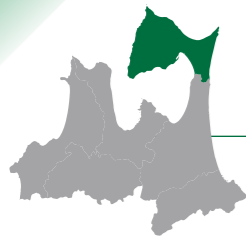
(4) 安全・安心で健康に暮らせる地域づくりの推進

人口減少や高齢化が進行する中で、地域で住民を支え合う地域コミュニティを強化し、災害に強い地域づくりを進めるとともに、地域住民の健康づく

りなどを展開し、安全・安心で健康に暮らせる地域づくりを推進します。

【主な取組】

① 住民のヘルスリテラシー（健やか力）の向上による生活習慣の改善	④ 地域社会で取り組む自殺予防対策の推進
② 包括ケアシステムの推進による保健・医療・福祉の連携充実	⑤ 災害に強い地域づくりに向けた防災公共の推進
③ 自然災害や感染症発生時における健康危機管理体制の強化	⑥ セーフコミュニティ※の理念の普及 <small>※セーフコミュニティ：事故によるけが、犯罪、暴力、自殺などを偶発の結果として捉えるのではなく、科学的なデータに基づく適切なプログラムで予防し、改善につなげていくために、行政、民間団体、地域住民など多くの主体の協働により、地域ぐるみで行う取組のことです。</small>



# 下北地域

むつ市 大間町 東通村 風間浦村 佐井村

## 1 2030年における地域のめざす姿

### 住民も訪れる人も心地よい時を過ごす下北地域

四方を海に囲まれた下北地域では、古くからの域外との交易・交流により育まれた優しく、おおらかな気風に包まれ、豊かな自然、独自の風土・歴史や特色ある食文化とあいまって、住民も訪れる人も心地よい時を過ごしています。

古き良きモノを守りながら、新しいモノを融合させ、地域の様々な分野の人が、連帯感を持って、ふるさとの元気を作り続け、暮らしやすく、多くの人が訪れる魅力ある地となっています。

#### めざす理由

地域住民が一体となった取組とともに、地域外の人々との積極的な交流によって、下北地域は「選ばれる地域」となることができます。

### 高いブランド力で地域内外から選ばれる下北の農林水産物

下北地域の特長である多種多様な農林水産物は、資源管理型漁業の推進、生産者同士の連携及び後継者の育成など様々な取組により、良質で安定的な生産が行われています。

さらに商工・観光分野とも連携し、付加価値を高める取組が戦略的に行われることで、下北ならではの極上品としてのブランドが確立し、地域の内外から選ばれるようになっています。

#### めざす理由

下北ならではのブランドの確立と情報発信により、外貨を獲得し、農林水産業が自立した「生業(なりわい)」となります。

### 観光客が繰り返し訪れる下北地域

地域内にある豊富な観光資源が更に磨き上げられるとともに、個々の資源の連携が図られ、観光客の多様なニーズに応じた観光プランが提供されています。

交流を支える交通基盤の整備が進み、地域外との交

流が盛んとなり、外国人観光客が増えています。

快適に滞在できる態勢が整っている上、地域住民との温かいふれあいを体験できることから、満足度の高い「何度も訪れたい地」となっています。

#### めざす理由

大間・函館新フェリー就航や北海道新幹線開業などを好機と捉え、地域資源を有機的に生かし、ニーズに対応した戦略的な誘客が必要です。

### エネルギー、ICTの利用先進地

風力、太陽光、海洋などの再生可能エネルギー及び原子力など多様なエネルギーの利用が進み、関連分野の雇用の場の確保や人材育成がなされています。

また、農林水産業、商工業、観光など地域産業の振興や医療・福祉を始めとする安全・安心な生活に寄与するICTの活用が盛んになっており、地理的ハンディキャップを感じない生活を営んでいます。

#### めざす理由

風力発電施設が集積しているなど再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地域であり、強みを生かします。

また、ICTの活用は地理的ハンディキャップをカバーする上で有効です。

### 安心して健やかに暮らせる下北地域

下北地域の住民は、きれいな水や空気に恵まれ、生命力あふれる自然に育まれて、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが健康で自立した生活を営ん

でいます。

また、必要な時に適切な保健・医療・福祉のサービスを受けることができ、安心して暮らしています。

#### めざす理由

活力のある自立した地域の実現に向けて、住民が生き生きと活動するためには、健康づくりが基盤となるのです。

### 手をつなぎ力を合わせる下北人

下北人は、子どもの時から、地域の歴史・自然・産業・文化・伝統・芸能を誇りに思い、地域の魅力を発信し続けています。さらに、地域内外の人と連携・

交流し、国際的視野を持って地域産業をリードする人財や地域づくりに積極的に取り組む人財が活躍しています。

#### めざす理由

地域に誇りを持ち、地域の発展を担う人財づくりとともに、地域間・分野間など様々な連携により、地域を元気にしていくことができます。

2 地域の概要

本州最北端の地域

下北地域は、県の最北部に位置し、むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村の1市1町3村で構成されています。四方を海に囲まれ、海に突き出た特徴的な地形から「まさかり半島」と呼ばれています。

面積は1,415平方キロメートルと県土の約15%で、急峻な山地が海岸まで迫り、平野部の少ない地形であり、約84%が森林です。

地域内でも場所により気候が異なっており、陸奥湾に面している西通りでは、夏は暑く、冬は雪が多い、津軽海峡に面している北通りでは、冬に海峡から吹き付ける風が強く、降雪量及び積雪量は少ない、津軽海峡と太平洋に面している東通りでは、夏は北東から吹くヤマセの影響で涼しく、山間部では降雪量及び積雪量が多いが、沿岸部では少ない、といった特徴があります。

本州最北端の地域であり、ニホンザル、ツキノワグマ、ニホンカモシカなどが生息する北限の地となっています。



陸路と航路の交通体系

地域の交通については、「まさかり」の柄の部分を通る1本の鉄道（JR大湊線）と2本の国道（国道279号、国道338号）で上北地域と結ばれており、その2本の国道が地域を周遊する形で結ばれることで主要な道路網が形成されているほか、下北半島縦貫道路むつ南バイパスの整備が進められています。今後は、高速交通体系を含めた道路網の整備が望まれています。また、東青地域や北海道との航路も有し、生活や交流の重要な手段となっています。

個性的な自然と交流の歴史・文化

自然豊かな下北には、恐山、薬研渓流、仏ヶ浦、本州最北端の大間崎、寒立馬が放牧されている尻屋崎などの景勝地を含む下北半島国定公園があり、また、むつ市の海底林、川内川渓谷、大間町の津鼻崎、東通村の尻屋崎周辺やヒバの埋没林、風間浦村の集塊岩、佐井村の仏ヶ浦や願掛岩など貴重な地質資源が数多くあり、地域一帯が学術的な観点からも高く評価され、ジオパーク※として、研究や取組が始まっています。

海を通じての交易・文化交流に歴史を有し、江戸時代には、北前船により北方や、江戸、上方の文化がもたらされました。また、明治維新に際し、会津藩が廃藩後、1年半の間斗南藩を置いたことから、今もゆかりの史跡が残っています。

国の重要無形文化財である「下北の能舞」を始め、佐井村の福浦歌舞伎、むつ市の奥内歌舞伎、栗山大神楽など、数多くの伝統芸能が各地に伝わっています。

※ジオパーク：地球科学的（地質学、地質学、海洋学、鉱物学、火山学、地形学など）に見て重要な自然の遺産を含む、自然に親しむための公園（通称「大地の公園」）のことです。

多様な山海の幸や温泉を楽しめる地域

このような独特の自然、歴史、文化、伝統芸能のほか、豊富な山海の幸、温泉などの観光資源に恵まれており、他の産業とも連携した体験型の観光が数多く提供されています。

農林水産業では、良好な漁場を有することから、漁業が盛んであり、マグロ、キアンコウ、ヒラメ、サケ、タラ、コンブなど多種多様な水産物が水揚げされており、全国的な知名度を誇る「大間まぐろ」に続き、「風間浦鮫鱈」、「海峡サーモン」などのブランドの確立をめざしています。農業では、畜産が盛んなほか、商標登録した「一球入魂かぼちゃ」や「夏秋いちご」、だいこん、アピオスの栽培など風土に適した特徴ある産物づくりが行われています。また、日本三大美林に数えられる青森ヒバの産地であることから、ヒバを活用した産品づくりも行われています。

また、国内有数の規模を誇る風力発電施設が立地しているほか、原子力関連施設や海洋研究施設など高度な技術を持つ施設が多く立地し、これらの施設・技術を活用した新たな産品づくりが期待されています。

3 地域の特性と課題

構成市町村ごとの人口と世帯数

下北地域の人口は、7万9,543人で、県全体の5.8%となっており、このうち、むつ市が77%程度を占めています。表1

表1 構成市町村の人口・世帯数

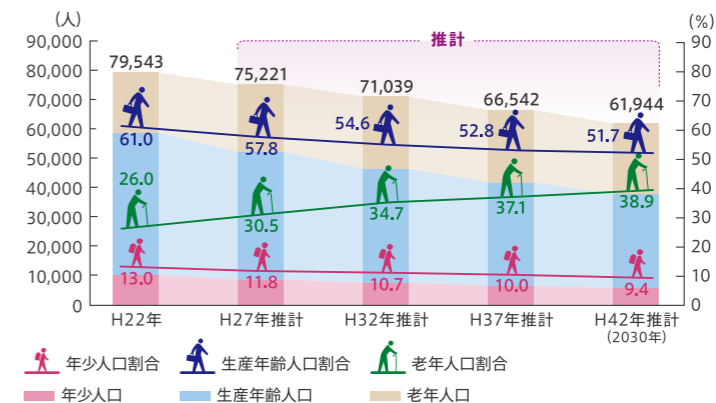
	むつ市	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	合計
人口(人)	61,066	6,340	7,252	2,463	2,422	79,543
世帯数	24,775	2,636	2,710	1,096	988	32,205

資料：総務省「平成22年国勢調査」

将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、下北地域の人口は今後減少を続け、平成42年（2030年）の時点では6万1,944人と、平成22年と比べて1万7,599人、22.1%減少すると見込まれています。また、平成42年には生産年齢人口割合が総人口の51.7%まで減少、老年人口は38.9%まで増加する見込みです。図1

図1 将来推計人口の推移



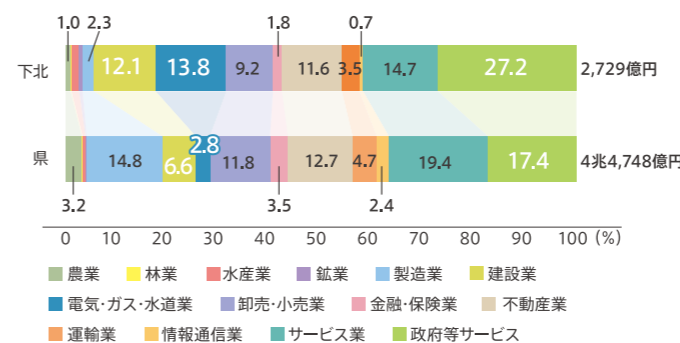
資料：総務省「平成22年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

域内総生産の経済活動別構成

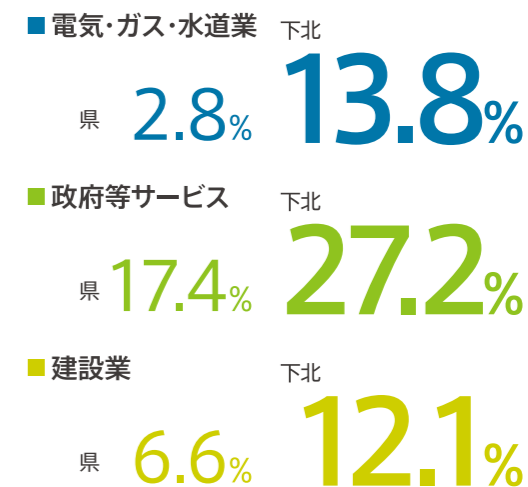
域内総生産額は2,729億円で、県全体の約6.1%となっています。内訳を見ると、政府等サービス、サービス業のほか、電気・ガス・水道業の割合が高くなっています。

県全体と比べると、電気・ガス・水道業、政府等サービスや建設業の割合が高く、製造業やサービス業の割合が低くなっています。図2

図2 域内総生産の経済活動別構成



資料：県企画政策部「平成22年度市町村経済計算」※総資本形成に係る消費税を控除していないため、合計は100%を超える。

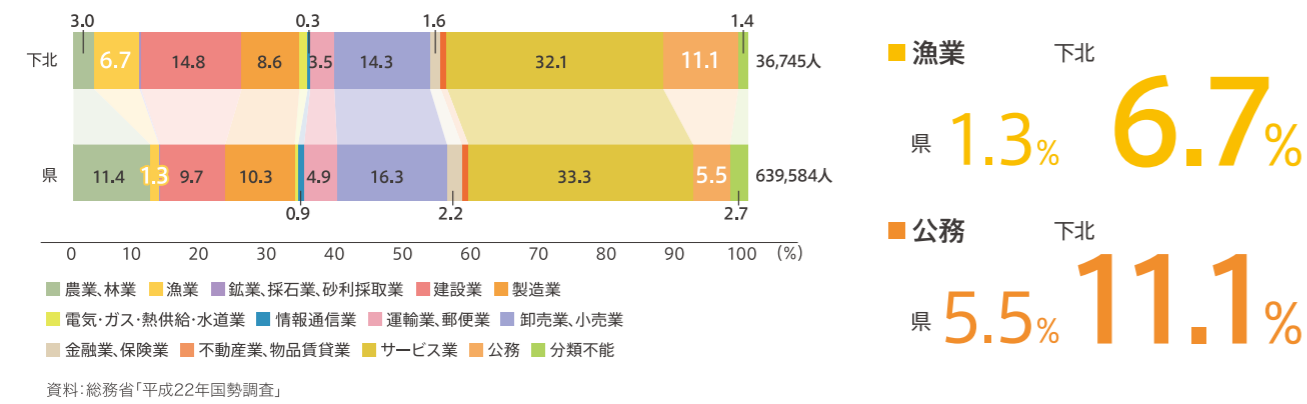


### 就業人口構成

就業人口は3万6,745人で、県全体の約5.7%となっています。内訳を見ると、「サービス業」の割合が最も高く、次いで「建設業」、「卸売業、小売業」の割合が高くなって

います。県全体と比べると「漁業」や「公務」の割合が高く、「農業、林業」の割合が低くなっています。 **図3**

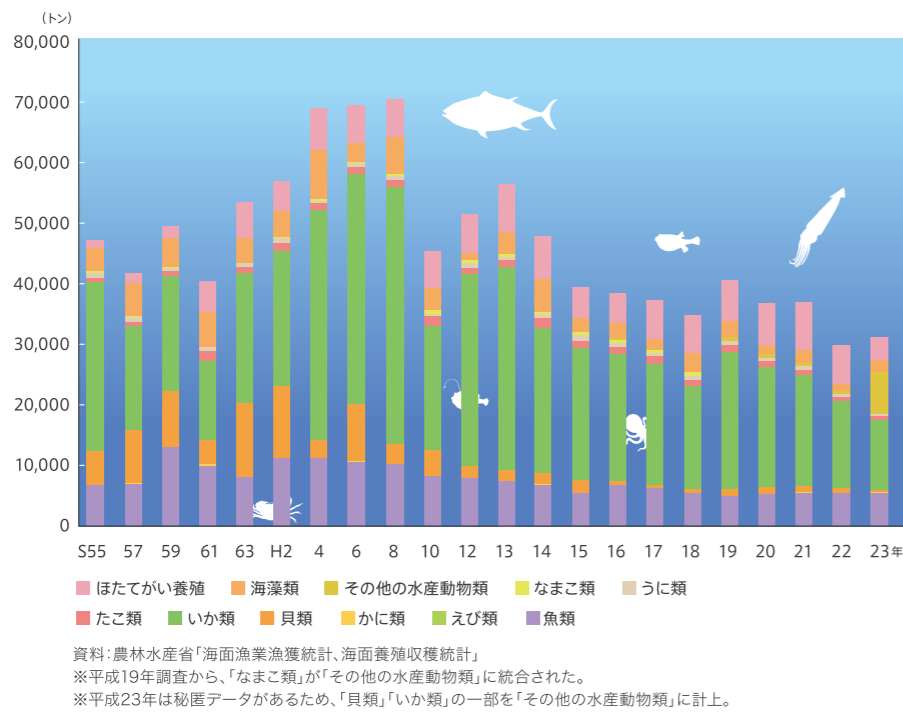
**図3** 地域の就業人口構成



### 海面漁業・養殖業生産量

下北地域の海面漁業・養殖業生産量では、いか類が生産量の多くを占めていますが、近年は全体として生産量が減少傾向にあります。 **図4**

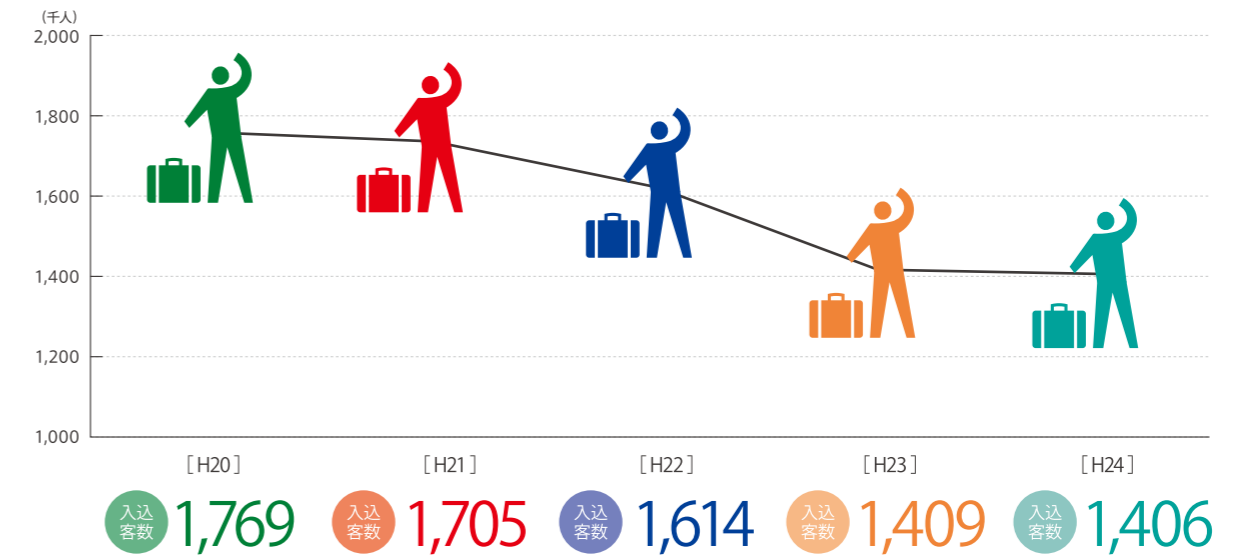
**図4** 下北地域の海面漁業・養殖業(ほたてがい養殖のみ掲載)生産量



### 観光入込客数

下北地域の観光入込客数は減少傾向にあり、平成24年は140万6,000人となっています。 **図5**

**図5** 観光入込客数

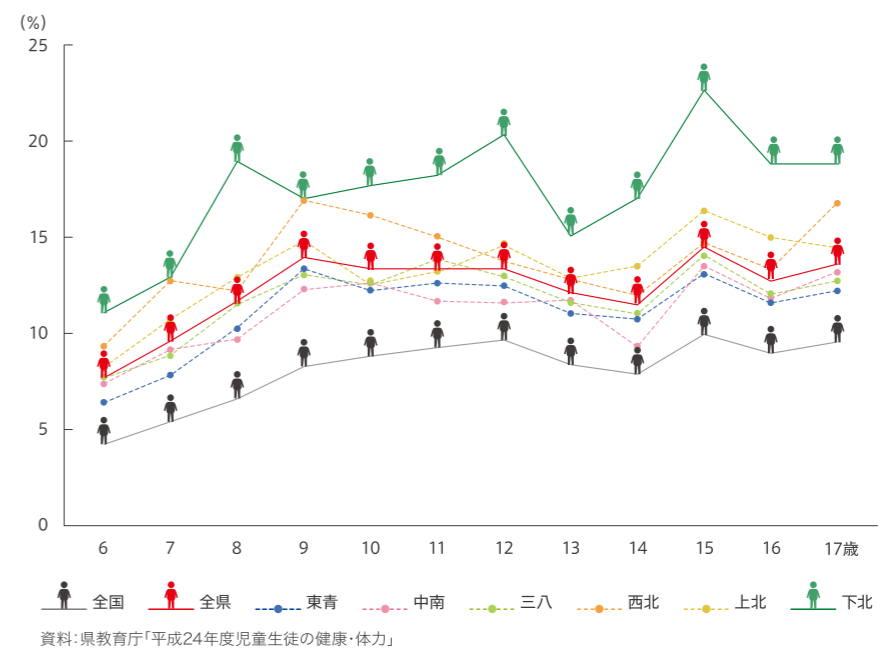


### 下北地域の健康指標

下北地域では、肥満者の割合や喫煙率が高いなど、健康に関する指標が芳しくない状況がありますが、中でも、肥満傾向児の出現率は、小学校1年生

から高校3年生までの全年齢層で県平均を上回るとともに、県内の他地域より高くなっています。 **図6**

**図6** 肥満傾向児出現率地区別比較



これからどうなる青森県  
 2030年の青森県  
 みんなでめざす  
 今からこつする青森県  
 政策・施策体系  
 産業・雇用  
 安全安心健康  
 環境  
 教育・人づくり  
 地域別計画  
 下北  
 めざす姿の実現  
 めざす姿に向かって  
 この計画を進めるために  
 資料篇



## 4 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

### (1) 地域の特長を生かした産業の充実

地域の強みを最大限に生かすマーケティング戦略を実行するための人・モノづくりを推進し、地域の基盤となる農林水産業の体質強化に取り組みます。

また、地域のポテンシャルを生かした再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、地域産業を始めとしたあらゆる分野におけるICTの活用を進めます。

#### 【主な取組】

① 資源管理型漁業の推進と漁場の維持・再生	⑤ ブランド力の向上及び情報発信力の強化
② 経営の改善や次代を担う人材の育成など農林水産業の基盤強化	⑥ 再生可能エネルギー活用に関する知識の普及
③ 生産者同士の連携活動のビジネス化など6次産業化の促進	⑦ 地域産業の基盤強化に資するICTの活用の促進
④ 森林の整備、管理及び間伐材の新たな利用の促進	

### (2) 特選下北観光の推進

関係者が一体となって、下北独特の歴史・文化・自然などを活用し、多様な顧客ニーズに対応した観光サービスを提供する仕組みづくりと情報発信の強化に取り組みます。

下北ならではの航路と連携させた広域的な交流促進を図るとともに、外国人観光客の受入態勢の整備を進めます。

また、平成27年度の北海道新幹線開業を見据えて、

観光客に強く満足していただくことによるリピーターの確保をめざします。

#### 【主な取組】

① 観光資源の開発や磨き上げの推進	④ 外国人観光客の受入れに向けた環境整備及び人材育成
② 教育旅行の誘致などによる安定的な観光客受入れの推進	⑤ 交通基盤の整備
③ 他地域との連携による広域観光の推進	⑥ 地域の観光情報発信の強化

### (3) 健康なまちづくりの推進

子どもの肥満出現率が県内の他地域より高い状況を改善するため、子どもの時からの生活習慣の見直しが重要となっていることから、様々な分野が

連携し、地域一体となって、健康づくりに取り組むための体制づくりを進めます。

#### 【主な取組】

① ヘルスリテラシー（健やか力）の向上を図るための対策の推進	③ 幼児期からの健康的な生活習慣づくりの推進
② 家庭・学校・企業・行政など地域一体となった健康づくりへの気運醸成	

### (4) 元気な下北をつくる人づくり

地域の歴史・自然・産業・文化・伝統・芸能といった魅力を知り、活力ある地域づくりに向けて活動す

る人材の育成と仕組みづくりを推進します。

#### 【主な取組】

① 下北学の普及や定着に向けた人材育成及び仕組みづくり	③ U・Iターンの推進
② 活力ある下北地域づくりをリードする人材の育成	